

事務事業名	筑穂保健福祉総合センター運営助成事業	事務事業No.	313 - 4
-------	--------------------	---------	---------

1. 基本情報						
担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名
福祉部	社会・障がい者福祉課	社会福祉係	再任用職員	中野 明	課長	森山 仁志
施策体系	総合計画	政策	3	健幸・子育て		
		施策	1	健幸都市づくりの推進		
		基本事業	3	健康づくり拠点施設の整備と活用		
	その他の計画	個別計画	なし			
根拠法令・条例・要綱等	筑穂保健福祉総合センター運営費補助金交付要綱 飯塚市補助金等交付規則					
事業開始年度	平成27年度	事業終了年度	未定	事務事業類型	ソフト事業	
実施手法	補助金・負担金交付	補助金等の支給	補助金等あり	実施計画期間	令和5年度～令和7年度	

2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と運動）

概要	筑穂保健福祉総合センターの運営を行う飯塚市社会福祉協議会に対して補助金を交付し、適切な施設の管理運営を実施できるよう支援する。					
対象	働きかける相手・もの	飯塚市社会福祉協議会				
手段	方法・働きかけ（活動指標）	無償貸与した筑穂保健福祉総合センターの運営に係る補助金を交付し、実績報告書を提出してもらう。				
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	適切な施設の管理と運営ができるよう支援する。				

3. 活動指標（決算成果説明書と運動）

指標名	単位	指標の説明（算式等）	前年度実績	本年度実績	次年度見込
補助金交付回数	回	飯塚市社会福祉協議会に補助金を交付した回数	3	3	3

4. 成果指標（決算成果説明書と運動）

指標	単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込	
事故件数	件	0	0	0	0	
説明	管理・運営上の不備による事故の件数	方向性	達成目標年度	実績	0	0
		維持	毎年度			
指標	単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込	
利用者数	人	13,372	13,372	13,372	13,372	
説明	健康増進室・多目的ホール利用者数	方向性	達成目標年度	実績	10,020	10,947
		維持	毎年度			
指標	単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込	
説明		方向性	達成目標年度	実績		

5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と運動）

経費区分	一般会計	政策的経費	特別会計	-	
予算科目・事業	会計 1 一般会計	款 3 民生費	項 1 社会福祉費	目 1 社会福祉総務費	
	大 4 社会福祉施設管理運営事業費	中 - 筑穂保健福祉総合センター管理運営事業費【政策】	他 0 事業		
投入人員 (当該事務事業に対して1年間に投入した人員)	(R2以降)	前年度実績(千円)	本年度実績(千円)	増減理由(10%以上の場合)	次年度予算(千円)
	正職員	0.07 人 547	0.07 人 557		0.08 人 636
	任期付職員(保育士)	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	任期付職員(子ども家庭支援員)	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	任期付職員(CW・水質)	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	再任用フル	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	再任用短	0.05 人 146	0.05 人 175		0.00 人 0
	会計年度 1級フル	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	1級パート	0.00 人 0	0.00 人 0		0.15 人 315
	2級パート	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
人件費計(A)		693	732	-	951
事業費	直接事業費(B)		20,000	21,375	21,375
	総事業費(A+B)		20,693	22,107	22,326
直接事業費のうち の主な歳出内訳	補助金負担金		20,000	21,375	21,375
	負担金		0	0	0
財源内訳	使用料・手数料(受益者負担分)		0	0	0
	国・県支出金		0	0	0
	市債		20,000	21,300	21,300
	一般財源		693	807	1,026
	その他()				

6. 事務事業の事後評価★		
評価視点	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性 評価	高い	総合的な保健福祉サービスを行うための施設として、民間法人に無償貸与し、補助金を交付しており、事業の目的のため、地域住民（受益者）の健康増進と福祉の向上を図る施設の財政支援として妥当である。
効率性 評価	高い	コストについては、施設の老朽化による維持管理のため、財政支援の増額検討の必要があり、負担割合については、施設で実施しているサービス事業の収益はすべて施設の運営費に充当しており、施設の無償貸与と補助金交付による管理運営形態となっているもので、財政支援は必要である
有効性 評価	高い	補助金の交付を通じて施設が適切に管理運営され、地域住民の福祉や健康増進等「健康都市づくり」の推進に貢献でき、福祉の向上を図るために有効である。

7. 前年度評価時の計画と実績		
前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★
評価区分	方向性	次年度以降に予算（コスト）を必要とせず、直ちに実施できる改善策
一次評価	⑤コスト・成果ともに現状維持	次年度以降に予算（コスト）増を必要とし、中長期的に実施する改善策
		利用者が安全に施設を利用できるよう、引き続き飯塚市社会福祉協議会に対して、管理運営について支援を行う。
		トレーニングルームの運動機器が老朽化し、利用に支障をきたしている状態であるため、機器の更新方法等について関係機関で協議する必要がある。
前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度にも実施できたこと、などを記入		
飯塚市社会福祉協議会に対し、利用者が安全に施設を利用できるよう管理運営について支援を行った。		

8. 今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★	
〔成〕	飯塚市社会福祉協議会に対し、施設運営のアドバイス及び補助金交付による財政支援を行った。老朽化したトレーニング機器については、旧第一体育館より稼働に問題ない機器を一部移設し、現状改善を行った。
〔課〕	補助金の中でトレーニング機器の更新を行い、併せて施設の維持補修を行うため、経費の助成を継続するとともに、利用者のため管理運営を指導していく必要がある。

9. 今後の事業の方向性と改善策	
成果の方向性	〔理由〕 市民への総合的な保健福祉サービスを提供するための施設を社協が、継続して事業実施していくため。
現状維持	
コスト投入の方向性	〔理由〕 補助金の交付を通じて施設が適切に管理運営され、地域住民の福祉や健康増進等「健康都市づくり」の推進に貢献でき、福祉の向上を図るために有効であるため。
現状維持	
次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	利用者が安全に施設を利用できるよう、引き続き飯塚市社会福祉協議会に対して、管理運営について支援を行う。
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	施設開設後26年が経過し、雨漏りや空調等設備の不具合が発生している。維持補修費に必要な経費の助成をしているが、トレーニング施設等のあり方等事業や施設の方向性について関係課と協議を行う。

評価変更理由	成果の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・「成果の方向性」「コスト投入の方向性」ともに1次評価のとおりとする。 ・期限を設定した上で、整理に向けた方向性を決定し、庁内で連携して協議を進めていくこと。
	現状維持	
	コスト投入の方向性	
	現状維持	